Ikiru- tanikawa shun ta rou

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

もれがまぶしいということ

ふっとるメロディを思い出すということ

くしゃみすること

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウムレャュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものにうということ

そして

かくされたをくこばむこと

生きているということ

いま生きているということ

けるということ

えるということ

れるということ

ということ

生きているということ

いま 生きているということ

Bocchan- natsu me so se ki

りのでのからばかりしている。にいる、の二階からびりて一週間ほどをかしたことがある。「なぜそんなむやみをした。」とくがあるかもしれぬ。

べつだんいでもない。

のからをしていたら

、のgájoudanに、「いくらいばっても、そこからびりることはできまい。やーい。」とはやしたからである。

におぶさってってきた、

おやじがきなをして「二階ぐらいからびりてをかすやつがあるか。」とったから、「このはかさずにんでみせます。」と えた。

Bếp: kitchin- yoshimotobanana

私がこの世でいちばん好きな場所は台所だと思う。どこのでも、どんなのでも、それが台所であれば食事を作る場所であれば私はつらくない。できれば機能的でよく使い込んであるといいと思う。いたなふきんが何枚もあって白いタイルがびかびかく。ものすごく汚い台所だって、たまらなく好きだ。にくずがらかっていて、スリッパのがっになるくらい汚いそこは、に広いといい。ひと冬軽く越せるようながぶな冷蔵庫がそびえ立ち、その銀のに私はもたれかかる。がびったガス台や、さびのついたからふると目を上げると、のにはしくがる。私と台所がる。自分しかいないと思っているよりは、ほんの少しましなだと思う。本当にれてたとき、私はよくうっとりと思う。いつか死ぬ時がきたら、台所でえたい。ひとり寒いところでも、誰かがいてあたたかいところでも、私はおびえずにちゃんと見つめたい。台所なら、いいなと思う。

No rư ư ê nô mori – murakamiharuki.

昔々、といってもせいぜいぐらい前のことなのだけれど、僕はあるに住んでいた。僕はで、大学にったばかりだった。のことなんて何ひとつらなかったし、しをするのもおや。初めてだったので、親が心配してそのをみっけてきてくれた。そこなら食事もついているし、いろんなもっているし、らずののでもなんとか生きていけるだろうということだった。もちろんのこともあった。のはしのそれに比べてにかった**。**なにしろとスタンドさえあればあとは何ひとつ買いえるがないのだ。僕としてはできることならアパートを借りて一人でにしたかったのだが、のややののことを考えるとわがままは言えなかった。それに僕もは住むところなんてどこだっていいゃと思っていたのだ。